

平成29年度公益財団法人国際エメックスセンター事業計画

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

I 事業方針

我が国及び海外における閉鎖性海域の環境保全に関する取組みの連携の強化を図り、積極的にこれに貢献するため、人的・知的ネットワークの有効活用を図るとともに、国内外の閉鎖性海域の環境保全に取り組む様々な市民、機関、研究者等の参加を得て、「多様な自然と人間が共生する持続可能な社会」を目指した事業を推進する。

II 事業計画

1 閉鎖性海域環境保全推進事業

ア 第12回世界閉鎖性海域環境保全会議（エメックス12）の開催準備等

エメックス12の開催については、平成28年（2016年）8月の科学・政策委員会において実施に向けた計画案が議論され、下記の案をもとに準備を進めることとなった。（タイでの開催は、平成15年（2003年）のバンコクでの開催（エメックス6）に続き2回目）

【エメックス12の概要案】

〔名称〕 第12回世界閉鎖性海域環境保全会議（EMECS 12）
〔時期〕 平成30年（2018年）11月4日（日）～9日（金）（調整中）
〔場所〕 パタヤ（タイ王国）
 ジヨムティエン パーム ビーチ ホテル & リゾート
〔主催者〕 国際エメックスセンター
〔共催者・現地事務局〕
 チュラロンコン大学

① エメックス12の開催準備

会議開催に向けて、現地の政府関係機関や研究機関、関係団体等とのネットワークの構築、資金面、人材面での協力を得られるよう準備を整える。このため、エメックス事務局が現地を訪問し、現地事務局との覚書締結や政府関係機関等を訪問し、協力要請を行う。

また、国内での関係機関等への広報を積極的に行うとともに、エメックス会議参加ツアーの企画等を進める。

② エメックス13等の開催検討

エメックス13及びエメックス14以降の開催については、これまでに開催された地域のフォローアップ及び開催実績のない新たな開催地（発展途上国や南半球での開催など）の検討の視点から、科学・政策委員会で調整を図りながら、開催適地を選定する。

③ 科学・政策委員会の開催

エメックス12の開催運営、エメックス13の開催検討を行うとともに、エメックス活動の今後の推進等について、海外専門家等の知識・経験をもとに検討調整を図るため科学・政策委員会を開催する。

イ エメックス国際セミナーの開催

世界の閉鎖性海域の最新の動向や環境保全政策の展開等に関する話題について広く県民・市民を対象としたセミナーを開催し、エメックス12に向けた機運を醸成していくとともに、エメックス活動の国内での普及啓発を進める。

〔開催時期〕平成29年（2017年）6～8月頃（予定）

〔開催場所〕神戸市内

ウ 国内外機関との連携

国際的な調査・研究事業の推進に向けて、海外研究者等との人的ネットワークを構築していくため、ECSA（河口域・沿岸科学学会）、PEMSEA（東アジア海域環境管理パートナーシップ）、MEDCOAST財団等海外関係機関との連携・充実を図る。

また、これまでインドネシア政府と共同で開催してきた里海国際ワークショップを今年度も開催するとともに、戦略研究プロジェクトの成果発表を行う特別セッションを主催する。

【第4回里海国際ワークショップの概要案】

〔時期〕平成29年（2017年）10月4日（水）～5日（木）（調整中）

〔場所〕ジャカルタ（インドネシア共和国）

〔共催者・現地事務局〕

インドネシア応用技術庁（BPPT）

〔里海特別セッション〕

・座長 柳 哲雄（国際エメックスセンター）

・発表者 西嶋 渉（広島大学）（テーマ1：瀬戸内海）

小松輝久（横浜商科大学）（テーマ2：三陸海岸）

吉田尚郁（環日本海環境協力センター）（テーマ3：日本海）

仲上健一（立命館大学）（テーマ4：社会人文科学）

エ 調査研究事業

① 戦略研究プロジェクトS-13「持続可能な沿岸海域実現を目指した沿岸海域管理手法の開発」の推進

環境省から戦略研究プロジェクト（環境研究総合推進費）を受託し、平成26年度（2014年度）から5年間にわたり、プロジェクトリーダーとなる柳哲雄九州大学名誉教授を特別研究員として迎え入れ、プロジェクトの全体管理を行うとともに、統合数値モデル構築などの研究に、関係大学・研究機関と

ともに取り組んでいる。

平成29年度（2017年度）についても、当初の計画に沿って着実にプロジェクトを推進していくほか、これまでの研究成果を国内外で発表していく。

【戦略研究プロジェクト（S-13）の概要】

○総括：プロジェクト全体の管理と沿岸海洋管理哲学の提示

テーマ5：沿岸海域管理のための統合数値モデル構築（平成27年度～）

○テーマ1：閉鎖性海域・瀬戸内海における栄養塩濃度管理法の開発

○テーマ2：開放性内湾が連なる三陸沿岸海域における海域管理法の開発

○テーマ3：陸棚・島嶼を含む国際的閉鎖海域・日本海の海域管理法の開発

○テーマ4：沿岸海域の生態系サービスの経済評価・統合沿岸管理モデルの提示

*各テーマの下にはさらに1～4のサブテーマが設けられる。

予算規模 プロジェクト全体で年間1.5億円

研究期間 5年間（平成26～30年度）

② 尼崎港実証実験施設の活用

水質や底質、生物の生息環境の劣化等の進んだ湾奥部の環境の再生をめざして尼崎港に設置している人工干潟等の実証試験施設を共同研究の場として活用し、大阪府立大学、兵庫県環境研究センター等関係大学や研究機関と連携して閉鎖性海域の環境保全・創造方策に関する調査研究の推進を図る。

2 情報収集整備活用事業

ア 閉鎖性海域情報センター（仮称）の整備

エメックスを世界の閉鎖性海域の情報を集約し、付加価値を高めて情報発信できるワンストップセンターとして整備するため、関連情報の収集整理を行うとともに、データベース整備、海域レポート発行等の準備を進める。

イ インターネットによる情報発信等

エメックス会議・国際セミナー等の開催案内や論文募集案内、会議開催結果や報告書等の公表、S13プロジェクトなど調査研究事業の成果発表、出版等に関する情報発信をはじめ、閉鎖性海域の環境保全と適正な利用に関連した各種情報の収集と発信（日本語・英語）をタイムリーに行う。

ウ エメックスニュース等による情報発信

当センターの活動状況、世界の閉鎖性海域の環境保全活動等を掲載した「エメックスニュース」を発行する（日本語・英語）。

また、会議開催案内、論文募集等タイムリーな情報発信が必要な内容について、メール配信システム（メルマガ）を利用した情報発信を行う。

3 人材育成・普及啓発事業

ア 統合的水環境管理研修（JICA研修）

国際湖沼環境委員会（ILEC）が国際協力機構（JICA）から委託を受けて実施する開発途上国行政官向けの「統合的流域（河川・湖沼・沿岸域等）管理による水資源の持続可能な利用と保全」研修について、沿岸域管理に関する研修を担当する。

イ 海の環境学習人材育成事業

尼崎港内の筏や人工干潟等を活用した環境人材育成活動を推進するため、引き続き徳島大学をはじめ地域の環境団体やNGO、専門家とともに事業を推進していく。

ウ 環境イベントへの出展等

エメックスセンター活動の普及啓発と閉鎖性海域の環境情報発信のため、エコフェスティバル等各種環境イベントに出展を行う。